

トルコの政策金利引き上げについて

ポイント① 政策金利を8.00%に引き上げ

トルコ中央銀行は11月24日の金融政策決定会合で、主要政策金利である1週間物レポートを0.50%引き上げ、8.00%とすることを決定しました。また、市場金利の上限となる翌日物貸出金利を8.25%から8.50%に引き上げた一方、市場金利の下限となる翌日物借入金利は7.25%に据え置きました。

一部の市場参加者は今回の利上げを予想していましたが、利上げ幅は1週間物レポレートで0.25%と見る向きが多かったため、0.50%の利上げは市場で驚きを持って受け止められました。利上げは2014年1月以来、2年10か月ぶりとなります。

ポイント② 通貨安によるインフレリスクに対応

今回の決定の背景には、トルコリラの下落によりインフレリスクが上昇していることがあります。7月のクーデター未遂を受けて政治的不透明感や地政学的リスクが高まったことに加えて、今月の米大統領選でトランプ氏が予想外の勝利を収め、新興国資産からの資金流出懸念が高まり、リラは対米ドルで過去最安値を更新していました。同中銀は声明で、通貨安によりインフレ見通しの上振れリスクが生じていると指摘し、「不都合な影響を阻止するため、金融引き締めの実施を決定した」と説明しています。

ポイント③ リラは一時上昇も、反落し、最安値を更新

利上げ決定を受けた外国為替市場では、利上げ幅が市場の大方の予想を上回ったことを受けて、トルコリラは一時上昇しました。

しかしその後、今後の金融政策に対する不透明感が意識されたことや、欧州議会がトルコとのEU（欧州連合）加盟交渉の中断を求める決議を採択したとの報道が伝わると、トルコリラは下落に転じ、対米ドルで前日比1.5%程度、対円で同0.8%程度のトルコリラ安（ニューヨーク時間24日17時頃）となり、対ドルで再び最安値を更新しました。

図1：政策金利の推移

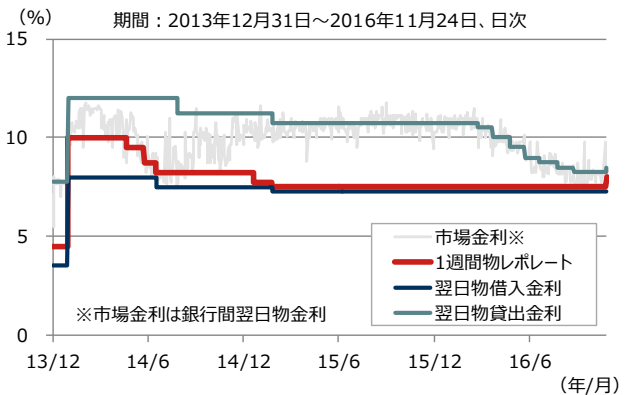


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

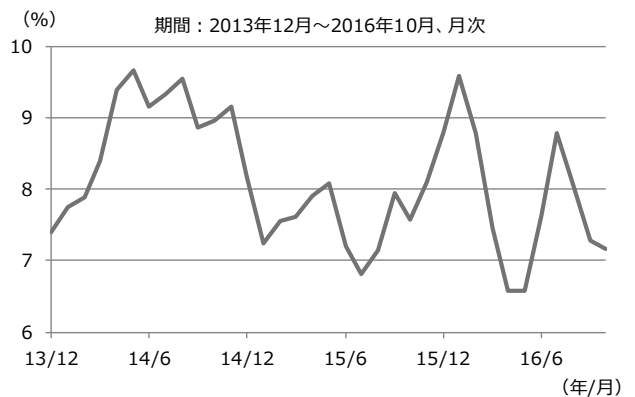


図3：為替レートの推移



重要
イベント

12月5日 消費者物価指数（11月）
12月12日 GDP（国内総生産、7-9月期）
12月20日 金融政策発表